

問題 I

以下の問題文の空欄 (1) (2) から (17) (18) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、下線部に関する設問 (ア) (19) (20) から (ウ) (23) (24) に対する解答として最も適切なものを選択肢の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

人類の歴史においては、古代から戦争が連綿と繰り返されてきた。それぞれの時代を生きた人々は、自らが経験した戦争の残虐さを訴え、平和を希求する作品を残してきた。それらは現在を生きる私たちに静かに重く問いかけている。

古代では、アテネの喜劇作家アリストファネスが (1) (2) に反対して代表作『女の平和』を発表した。同時期の中国では墨子が兼愛・非攻を説いた。インドではアショーカ王が征服活動によって多数の犠牲者を出したことを悔い、仏教に帰依したとされる。

時を経て16世紀に入ると、ヨーロッパで近代最初の平和論といわれる『平和の訴え』が、^(ア)エラスムスによって書かれた。「野獣たちでさえ、大群で相手を絶滅させるための戦いをしたりはしない。飢えに追いつめられるか、子どもを守るために死にものぐるいにならぬ限り、戦争をしかけることはない」とキリスト教徒を風刺している。(3) (4) 会の修道士であるラス＝カサスは『インディアスの破壊についての簡潔な報告』を著し、スペインによる征服戦争を批判して平和的布教を説いた。17世紀にはグロティウスが三十年戦争のさなかに『戦争と平和の法』を著し、戦争に関する抑制が欠如し武器がとられると法がまったく無視されるという現実直面し、戦争を抑止し戦闘手段の残虐さを緩和することを主張した。同じく三十年戦争のさなかに外交官としても活躍した画家 (5) (6) は、『麦藁帽子』のほかに『戦争の惨禍』といった作品を残している。しかしその後も戦争は絶えることがなく、19世紀にはドラクロワが『キオス島の虐殺』で (7) (8) の様子を描いた。

人道的活動を行う機関として今日広く知られる国際赤十字は、提唱者である (9) (10) が『ソルフェリーノの思い出』のなかでイタリア統一戦争の惨状を著したことを契機に設立された。「進歩とか文明ということが大いに語られるこの時代において、不幸なことに戦争が常に必ずしも避けうるものではないのであるから、人道と真の文明との精神にもとづいて、戦争を防止し少なくともその恐ろしさを緩和しようと根気強く努力することが緊要ではなからうか」と訴えている。

こうした先人の願いにもかかわらず、20世紀は総力戦による未曾有の戦争の世紀となった。第一次世界大戦について、作家 (11) (12) は『西部戦線異状なし』で一進一退を繰り返す泥沼のような塹壕戦の様子を描いた。この戦争では航空機や戦車といった新兵器が次々に登場し、1915年ベルギーの (13) (14) の戦いではドイツ軍が実戦において毒ガスを初めて使用した。

^(イ)第一次世界大戦後、ヴェルサイユ条約第一編である国際連盟規約は国が戦争を開始することに一定の制限を課して集団安全保障の仕組みを設けたが、次の大戦を止めることはできなかった。^(ウ)1936年に始まったスペイン内戦では戦略爆撃が行われたが、これは非戦闘員が多く住む都市の上空から爆撃機によって強い破壊力をもった爆弾を投下する無差別なものであった。1938年に始まり1943年まで続いたとされる日本軍による (15) (16) 爆撃もその例とされ、近年被害者が日本の裁判所に訴訟を提起している。アメリカは東京に戦略爆撃を行い、広島と長崎に原爆を投下した。

第二次世界大戦後、1945年10月に発効した国連憲章は、前年 (17) (18) で原案が作成されたものであり、言語に絶する悲哀を人類に与えた戦争の惨害から将来の世代を救うことを前文に掲げている。

設問

(ア) 次のうち、エラスムスが活躍していた時期の出来事を述べた文として最も適切なものはどれか。

(19) (20)

01. イギリスではトマス＝モアが『ユートピア』を発表した。
02. イタリアではガリレオ＝ガリレイが地動説を唱えた。
03. フランスではモンテーニュが『随想録』を発表した。
04. ドイツではグーテンベルクが活版印刷術を発明した。
05. スペインではセルバンテスが『ドン＝キホーテ』を発表した。

(イ) 次のうち、第一次世界大戦後の出来事を述べた文として最も適切なものはどれか。

(21) (22)

01. ヴィルヘルム 2 世は戦争犯罪人としての裁判にかけられた。
02. ワシントン海軍軍縮条約では米英仏独日の主力艦保有比率が定められた。
03. 1927年のジュネーヴ軍縮会議では毒ガス禁止議定書が調印された。
04. 1928年の不戦条約では国際紛争解決のための戦争が禁止された。
05. ドイツは再軍備を宣言し、ロカルノ条約を破棄後、国際連盟を脱退した。

(ウ) 次のうち、スペイン内戦を題材とした作品として最も適切なものはどれか。

(23) (24)

01. スタインベック『怒りの葡萄』
02. ヘミングウェイ『誰がために鐘は鳴る』
03. オーウェル『動物農場』
04. バック『大地』
05. フランクフル『夜と霧』

〔語群〕

- | | | | |
|----------------|-------------|-----------------|--------------|
| 01. アウグスティヌス | 02. イエズス | 03. イーブル | 04. ヴェルダン |
| 05. エジプト＝トルコ戦争 | 06. 延安 | 07. 海口 | 08. カイロ |
| 09. カヴール | 10. ガリバルディ | 11. ギリシア独立戦争 | 12. クーベルタン |
| 13. サンフランシスコ | 14. 重慶 | 15. シュペングレー | 16. 瀋陽 |
| 17. ソンム | 18. タンネンベルク | 19. ダンバートン＝オークス | 20. テヘラン |
| 21. デュナン | 22. デューラー | 23. デンマーク戦争 | 24. トーマス＝マン |
| 25. ドミニコ | 26. トロイア戦争 | 27. 敦煌 | 28. ナイティンゲール |
| 29. ファン＝ダイク | 30. 普墮戦争 | 31. 普仏戦争 | 32. フランチェスコ |
| 33. プリュージェル | 34. ブルースト | 35. ベネディクト | 36. ペルシア戦争 |
| 37. ペロポネソス戦争 | 38. ポエニ戦争 | 39. ポツダム | 40. マルヌ |
| 41. ムリリョ | 42. ヤルタ | 43. ルーベンス | 44. レマルク |
| 45. ロマン＝ロラン | | | |

問題Ⅱ

以下の問題文の空欄 (25) (26) から (33) (34) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、下線部に関する設問 (ア) (35) (36) から (ク) (49) (50) に対する解答として最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

一般的に、中国の近代史は冊封体制の動揺と崩壊にはじまるとされる。アヘン戦争あるいは ^(ア) マカートニー使節団の清朝皇帝謁見以降、近代の中国史は、太平天国の乱、 (25) (26) のなかの革命派による蜂起が導火線となった辛亥革命、五・四運動へと展開していく。

確かに、19世紀半ば以降の中国社会の変化は、「西洋の衝撃」と呼ばれるアヘン戦争を契機とする、^(イ) 欧米列強の進出によって加速した。しかし、これを強調しすぎると、それ以前の中国は沈黙し、停滞していたとみなされるかもしれない。「西洋の衝撃」を受ける以前から、中国社会やそこに住む人々の生活は大きな変化を経験し、近代史の準備を静かに進めていたのである。

例えば、明末清初の混乱が治まった後、^(ウ) 人口が大きく増加した。この増加の背景として、清朝康熙帝・雍正帝・乾隆帝の三代が平和な時代であったことが指摘できる。この時代の繁栄の様子は、乾隆帝時代の蘇州の光景を描いた徐揚による『 (27) (28) 』からうかがうことができよう。人口増加のいまひとつの背景として、宋朝期に移入された ^(エ) 占城稻の品種改良が進んだこと、明朝中期以降に長江中流域、さらに明朝末期以降に珠江流域の沖積低地の耕地開発が進んだことなど、農業関連技術の進歩があったことがあげられよう。

こうした人口の急激な増加は、様々な地域で人口移動を引き起こし、近代中国史に少なくない影響を与えた。例えば、長江上流域や浙江・福建・江西の省境地域、さらには西南高原地域などの山間辺疆地域への移動がそうである。^(オ) 明朝期にアメリカ大陸から伝わってきた、山地でも栽培可能なトウモロコシやサツマイモなどの作物が普及したことにより、移住者による山地の開墾が促されたといわれる。しかし、それら移住者は、大量に山地へ流入することによって生態系の悪化をまねき、また限られた資源をめぐる競争をおこし、同地に先住する ^(カ) 少数民族との間で争いが発生した。これらのことによって移住地の社会環境は不安定化していった。

いずれの時代でも社会環境が不安定になると、民間宗教が活発化し、普及する傾向がある。1796年に四川、湖北、陝西、河南、甘肅などの地域で白蓮教徒の乱が発生したことは、その一例であった。清朝は、この乱の鎮圧に手を焼いた。これは、清朝正規軍の戦闘能力が劣悪であったからである。最終的に乱は郷紳が組織した郷土防衛軍の活躍によって鎮圧された。これ以降、清朝の政治的威信は大きく揺らいだ。この後に発生した (29) (30) において、乱徒が紫禁城の中に侵入したことは、それを象徴するものであったといえよう。これらの事件を期に、地方政治における郷紳の地位は、以前と比較して向上しはじめたといわれる。それは後に、^(キ) 太平天国の乱に際して、郷紳によって組織された「湘軍」や「淮軍」となって現れる。これらの郷勇は、清朝末期に創建された西洋式軍隊の母胎でもあり、辛亥革命が各省の独立というかたちで展開した背景ともいえる。さらに、それらは中華民国期の軍閥へとつながっていくことは、周知のとおりである。

いまひとつの人口移動とは、海外流出である。福建省や広東省をはじめとする南方沿海地域から、大規模な人口が東南アジア地域に流出し、いわゆる南洋華僑を生み出すことになった。そうした東南アジア地域への人口移動の中心は労働人口の移動ではあったが、一部には現地の金融・商業、農業開発にまで進出し、さらには ^(ク) 政治的に影響力を持つものもいた。

華僑は同郷・同族意識が強く、 (31) (32) という相互扶助組織をもつ。この結果、移住後数世代を経ても中

国人としてのアイデンティティーを存続させ、中国との関係を強く意識した活動をすることが多い。例えば、辛亥革命に対して、また抗日戦争に対して少なくない華僑が支援をおこなっていたことはよく知られている。また、「改革・開放の総設計師」と呼ばれ、1997年に死去するまで中国の事実上の最高指導者であった (33) (34) は、改革・開放政策の遂行にあたって華僑の支援を期待していた。彼らが実際に中国の経済発展に果たした影響は少なくなかった。

設問

- (ア) 結局、同使節団は冊封体制を打ち崩すことはできなかったが、これ以前に清朝は、ヨーロッパのある国との間ではじめて互恵平等の立場で条約を締結している。その条約名は何か。 (35) (36) 条約
- (イ) 他の欧米列強と同様に、ポルトガルもまたアジアにおいて植民地を保有していた。2002年5月に独立したポルトガルの植民地であった地域はどこか。 (37) (38)
- (ウ) 18世紀末の中国の人口は約何億といわれているか。約 (39) (40) 億
- (エ) 「占城」は地域の名称である。どの地域を指すか。 (41) (42)
- (オ) 当時、これらの植物の栽培技術を解説する『本草綱目』や『農政全書』をはじめ、伝来した西洋科学技術の刺激を受けながら、さまざまな分野の科学技術書の名著が生まれた。これらの書籍に代表される学問は何か。 (43) (44)
- (カ) 現代中国においても漢民族と少数民族との関係のあり方は大きな政治的課題である。現在中国が直面している同問題のなかで、「東トルキスタン独立運動」と称される問題を抱えている地域はどこか。 (45) (46)
- (キ) この他の「郷勇」に、例えば「楚軍」がある。これを率い、また福州船政局の創建に尽力するなど、洋務運動の先駆をなした人物は誰か。 (47) (48)
- (ク) 仏教を保護したことで知られるラーマ1世（在位1782～1809年）は、母親が潮州を出自とする有力な華僑商人であったといわれる。ラーマ1世を祖とする、その王朝名は何か。 (49) (50) 朝

〔語群〕

- | | | | |
|---------------|-------------|-------------|-----------------|
| 01. 1 | 02. 2 | 03. 3 | 04. 5 |
| 05. 10 | 06. アイグン | 07. アチェ州 | 08. アユタヤ |
| 09. 印僑 | 10. 内蒙古自治区 | 11. 袁世凱 | 12. 延辺朝鮮族自治州 |
| 13. 海南島 | 14. キャフタ | 15. 義和団事件 | 16. クチュク＝カイナルジャ |
| 17. クディリ | 18. 公羊学 | 19. 苦力 | 20. 訓古学 |
| 21. 経世致用の学 | 22. ゴア | 23. 紅軍 | 24. 広西壮族自治区 |
| 25. 江沢民 | 26. 国民革命軍 | 27. 湖北新軍 | 28. 胡耀邦 |
| 29. コンバウン | 30. 坤輿万国全図 | 31. 左宗棠 | 32. 朱鎔基 |
| 33. 新疆ウイグル自治区 | 34. 壬午軍乱 | 35. 新四軍 | 36. スコータイ |
| 37. 盛世滋生図 | 38. 清明上河図 | 39. 西山党の乱 | 40. 台湾 |
| 41. ダマン | 42. 知行合一 | 43. チベット自治区 | 44. 趙紫陽 |
| 45. 天工開物 | 46. 天理教徒の乱 | 47. 鄧小平 | 48. ニスタット |
| 49. ネルチンスク | 50. 捻軍の乱 | 51. 客家 | 52. 幫 |
| 53. 万樹園賜宴図 | 54. 東ティモール | 55. ベトナム | 56. 北洋軍 |
| 57. マカオ | 58. マラッカ | 59. ミンダナオ島 | 60. 両班 |
| 61. 陽明学 | 62. ラタナコーシン | 63. 李大釗 | 64. 劉永福 |
| 65. 林則徐 | | | |

問題Ⅲ

以下の問題文の空欄 (51) (52) から (65) (66) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、下線部に関する設問(ア) (67) (68) から(エ) (73) (74) に対する解答として最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

現代社会は、高度に発達した科学技術によって支えられているが、一方でそれらがもたらす環境破壊などの諸問題に直面している。

14世紀から16世紀にかけてヨーロッパ各地に広まったルネサンスと16世紀の宗教改革は、人々を教会中心の考え方から解放した。人間中心の合理的で科学的な新しい世界観に転換していく過程で、イスラーム世界における神学や法学などの固有の学問とともに、イスラーム世界にとっては外来の学問である哲学や数学が、いわゆる融合文化としてヨーロッパに伝わった。

自然や社会への関心が深まるなかで、新たな考え方が生み出され、17世紀にはフランシス＝ベーコンによるイギリス経験論とフランスのデカルトが唱えた大陸合理論という二つの認識論が誕生した。これらの実験的手法と数学的論証を基盤として、科学革命の時代が到来し、近代の自然科学的考察法が確立した。『プリンキピア』を著したニュートンは、この時期を代表する自然科学者であるが、当時の哲学者たちも広く科学分野全般で活躍した。单子論を説いたライプニッツもニュートンと相前後して (51) (52) を考案し、デカルトらとともに近代数学の基礎を築いた。

各国では科学アカデミーが設立され、君主たちは学問の活性化を援助した。国王 (53) (54) の時代に初めて特許状を受けて発展したイギリス王立協会は、自然についての知識の改良に努めた。フランスではルイ14世の時代にフランス科学アカデミーが創設され、その会員となった (55) (56) は、土星の衛星タイタンを発見し、光の波動説を唱えて物理学の発展に貢献した。プロイセンでもライプニッツの企画による科学アカデミーが、ベルリンに設けられた。このころに発達した コーヒーハウス(カフェ) には、一般の学者や文人、商人などが集まって世論を形成した。

18世紀から産業革命をむかえた欧米では、これと連携する形で19世紀にかけて自然科学も飛躍的に進歩した。物理学では、 (57) (58) によって実験的に初めて電磁波が確認され、電磁気学が発展した。エネルギー保存の法則もこの時期に発見された。化学の分野では、 (59) (60) がアンモニアソーダ法を考案したことで、ガラスの原料である炭酸ナトリウムが工業的に安価で製造できるようになった。ほかにも産業に直結する応用面で数々の目覚ましい進展がみられたが、 (61) (62) のさなかにガトリングによって機関銃が開発されるなど、一部の成果は直ちに軍事技術にも応用された。また、生物学者ダーウィンは、ガラパゴス諸島における動物たちの自然環境への適応に着目して進化論を発表したが、これは社会科学にも大きな影響を与え、『総合哲学体系』を著したイギリスの思想家 (63) (64) によって社会進化論が提唱された。

20世紀に入ると第二次世界大戦をはさんで科学技術は驚異的な進歩をとげた。物理学では、アインシュタインによる相対性理論が、ニュートン以来続いていた古典物理学を根底から覆し、原子力エネルギーの開発が可能となった。化学においては、ナイロンの発明が契機となって、石油化学工業が発達した。医学、生物学の世界では、DNAの構造解析をはじめとする生化学、分子生物学分野の進展により、多くの新薬が開発され、予防医学の発展もあって、人間の寿命はかつてないほど伸びた。

一方で、1962年にレイチェル＝カーソンが著した『沈黙の春』は、環境問題の古典といわれ、環境保護運動の意識を覚醒させることに大きく寄与した。1992年には、 (65) (66) で国連環境開発会議が開催され、「気候変動枠組

条約」に各国が署名するなど、今日にいたるまで地球温暖化を中心に環境問題を議題とする国際会議が頻繁に開催されるようになった。

設問

- (ア) セルジューク朝では、固有の学問を育成するために、マドラサと呼ばれる高等教育施設が建設された。このマドラサの発展に尽力し、『統治の書』を著した人物は誰か。 (67) (68)
- (イ) 当時の自然科学者を題材にした『天文学者』、『地理学者』を描いた画家は誰か。 (69) (70)
- (ウ) 16世紀中ごろに世界初のコーヒーハウス（カフェ）が開店した都市はどこか。 (71) (72)
- (エ) 20世紀に開発された重要な新薬のひとつに抗生物質がある。世界初の抗生物質ペニシリンを発見した人物は誰か。 (73) (74)

〔語群〕

- | | | | |
|----------------|----------------|--------------|-------------|
| 01. アルプ＝アルスラーン | 02. アロー戦争 | 03. イスタンブル | 04. ウィーン |
| 05. ヴォルタ | 06. ウマル＝ハイヤーム | 07. エマーソン | 08. キュリー夫妻 |
| 09. 京都 | 10. クリック | 11. コッホ | 12. コント |
| 13. 三角法 | 14. ジェームズ1世 | 15. ジェームズ2世 | 16. シャルダン |
| 17. 十進法 | 18. 清仏戦争 | 19. スtockホルム | 20. スペンサー |
| 21. ソルヴェイ | 22. 第一次世界大戦 | 23. 代数学 | 24. タブリーズ |
| 25. チャールズ1世 | 26. チャールズ2世 | 27. トゥグリル＝ベク | 28. 南北戦争 |
| 29. ニザーミー | 30. ニザーム＝アルムルク | 31. 二次方程式 | 32. ハーヴェー |
| 33. パストゥール | 34. パリ | 35. 微積分法 | 36. ビュフォン |
| 37. ファラデー | 38. フィレンツェ | 39. フェルメール | 40. プーシェ |
| 41. フレミング | 42. 米西戦争 | 43. ベラスケス | 44. ヘルツ |
| 45. ベンサム | 46. ホイヘンス | 47. マクスウェル | 48. マリク＝シャー |
| 49. マルクス | 50. 南アフリカ戦争 | 51. モントリオール | 52. ラプラス |
| 53. リオデジャネイロ | 54. リービヒ | 55. リンネ | 56. レントゲン |
| 57. レンブラント | 58. ロンドン | 59. ワックスマン | 60. ワトソン |

問題 IV

以下の問題文の空欄 (75) (76) から (99) (100) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

ヨーロッパには歴史上、大国の専横の狭間で翻弄されてきた小国や地域が数多く存在する。

今日のベルギーの北半分を形成するフランドル地方は10世紀以来、毛織物産業で栄えていた。その中心がアントワープと並ぶ河口港湾都市の (75) (76) であった。このフランドル地方は英仏間で百年戦争が続くさなかの1384年、婚姻によって (77) (78) 領となるが、さらにその後、婚姻や相続によって勢力を増すハプスブルク家の支配下におかれた。そのようななかでハプスブルク家のスペイン分家であるフェリペ2世の統治下ではその地のプロテスタントが大弾圧を受ける事態が勃発する。彼らプロテスタントたちはのちに (79) (80) と呼ばれるようになる。この弾圧に対する抵抗も激しく、長期間にわたる戦争の結果、北部だけがオランダとして独立を達成しえたものの、フランドル地方はハプスブルク家支配の下にとどまることになる。もっとも1714年の (81) (82) によって、その領有はオーストリアのハプスブルク家に移行することになるのだが。

その後もフランドル地方はハプスブルク家とフランスとの確執のなかで外国支配と戦乱の年月をむかえる。しかしその後 (83) (84) の結果、フランス領から今度はオランダに併合されることになる。この地方がようやくひとつの国家ベルギーとして独立できたのは1830年のことであった。しかしベルギーは第一次世界大戦においても、第二次世界大戦においても中立を破られ、ドイツ軍に長く占領された。

ちなみにベルギーといえば今日、チョコレートが有名だが、これには (85) (86) が個人所有していたコンゴで採れるカカオの存在が大きい。コンゴはその後ベルギーの植民地となるが、独立に際して内乱が発生した時にも、カタンガ州の (87) (88) 資源の利権を狙ってベルギーがこれに干渉している。

ベルギーと同じくドイツとフランスの間で翻弄されてきたのがアルザス・ロレーヌ（ドイツ語ではエルザス・ロートリンゲン）地方である。元来、ドイツとフランスの境界は870年のメルセン条約でほぼ確定されていた。しかしライン川周辺の豊富な地下資源や農作物をめぐる両国の間にはこの地の熾烈な争奪戦が頻発する。ハプスブルク家との対抗のなかで、まず神聖ローマ帝国領であったアルザスとロレーヌの一部が1648年に (89) (90) の巧みな外交手腕によってフランス領となった。ロレーヌ地方はその後、紆余曲折を経て領有国が変わるが、 (91) (92) がマリア＝テレジアの結婚を認める条件として要求した領土交換をきっかけとして1766年にフランスに併合される。19世紀以降になると独仏間の戦争のたびにこの地はその領有国をめまぐるしく変えることになる。

このような歴史をもつアルザス・ロレーヌ地方から、第二次世界大戦後、フランスの政治家 (93) (94) が登場し、1950年の演説の中でヨーロッパ統合を提唱した。その演説がドイツとフランスの宥和の出発点となった (95) (96) の設立につながった。それは今日のEUの重要な礎石となった。独仏間の対立と宥和の象徴でもあるこの地方の中心都市であるストラスブールには、こうした背景もあって (97) (98) の本会議場が置かれており、それは現在、より大きな権限を有するようになっている。

他方ベルギーのブリュッセルも同じような背景から今日は国際都市であり、多くの国際機関がひしめいているが、そのひとつにEUの本部がある。EUは近年ますます存在感を増しているが、2007年1月1日からは新たにブルガリアと (99) (100) がこれに加盟した。

〔語群〕

- | | | | |
|-------------|-----------------|----------------|--------------|
| 01. ECSC | 02. EFTA | 03. EMS | 04. EURATOM |
| 05. ILO | 06. NATO | 07. OEEC | 08. OSCE |
| 09. アーヘン和約 | 10. アーミッシュ | 11. アムステルダム | 12. ヴァロワ家 |
| 13. ウィリアム3世 | 14. ウィーン議定書 | 15. ウェストファリア条約 | 16. 欧州議会 |
| 17. カペー家 | 18. カルロヴィッツ条約 | 19. ガン | 20. ギュイエンヌ公 |
| 21. 金 | 22. クリスティナ女王 | 23. クロアチア | 24. ゴイセン |
| 25. コルベール | 26. ジスカールデスタン | 27. シューマン | 28. スロヴァキア |
| 29. 石油 | 30. ダイヤモンド | 31. ティエール | 32. 鉄鉱石 |
| 33. 銅 | 34. ド＝ゴール | 35. ナポレオン | 36. ビスマルク |
| 37. ビューリタン | 38. フベルトウスブルク条約 | 39. ブリュッセル | 40. ブルゴーニュ公 |
| 41. プルターニュ公 | 42. プレスビテリアン | 43. プレーメン | 44. ボードゥアン1世 |
| 45. ボンピドゥー | 46. マザラン | 47. マーシャル | 48. マルタ |
| 49. ユグノー | 50. ユトレヒト条約 | 51. ラシュタット条約 | 52. リシュリユー |
| 53. リトアニア | 54. リヨン | 55. ルイ14世 | 56. ルイ15世 |
| 57. ルイ16世 | 58. ルーマニア | 59. レオポルド2世 | 60. ロンドン会議 |